



発行
上田高等学校同窓会
中南信支部事務局
題字
(故)松岡翠風(仁太郎)氏
(39期)
安曇野市に居住し、
全日展書法会副会長などを
歴任された

会員の皆様へ 支部長 菅谷昭 (60期)



「チェルノブイリの孫！」

私が手術を執刀した女兒が母になりました

中南信支部同窓会会員の皆様におかれましては、その後もお変わりなくそれぞれのお立場で、健康かつ充実した日々を送っていらっしゃることを拝察致しております。

相変わらず国内外におきましては、宗教や民族に関わる紛争（テロ・内戦等）、核兵器や原発も含めた核関連問題の不穏な動き、更には大規模自然災害の発生等、憂慮の念に耐えない様々な事象が続発しております。何となく先が思いやられ、何とか先が思いやられる昨今でございます。もちろん心が和む、ほっとするニュースもありますが、さて、第13回支部総会において、会員の皆様のご承認を賜り、小林茂昭前支部長よりバトンを受け、力量不足の身ではありましたが、多くの会員諸氏のあたり、多くの会員諸氏のあたたかいご支援ご協力をいただき、10年もの長きにわたる支部長職を私なりに務めてまいりました。日々公務に追われ、これまで役員の方々には多大なるご迷惑をおかけし深くお詫び申し上げます。

私が手術を執刀した女兒が母になりました。幸甚に思う次第でございます。併せて、この際支部長を退任させていただきますことをご承認くださいますようお願い申し上げます。

とここで私事で誠に恐縮でございますが、この3月の市長選挙において、引き続き市政運営を担うことになってしまいました。今期はこれまでのまちづくりに政策の総仕上げに向けて努めてまいる所存でありますので、会員の皆様のお力添えを賜りますれば、中南信支部同窓会の一層の発展を祈りつつ。

ここで本会の運営に関する10年を振り返りますと、安定した健全財政を堅持するための工夫と努力、また事業活動として、出席してよかったと思える年次総会の開催や会員に楽しく読んでいただける会報の発行、そして毎月恒例の和気藹々の情報交換会や会員相互の交流の場の設置、加えて本部を始めとする各支部総会への参加など、役員並びに会員の皆様の積極的なご協力を得て、無事職務を遂行できましたことに、改めてこの場をお借りし衷心より感謝を申し上げます。

～第23回支部総会のご案内～

■日時:11月19日(土)

14:30 開場

15:00～15:45 第一部 : 総会

16:00～16:45 第二部 : 記念講演

17:00～18:45 第三部 : 懇親会

■会費: ¥7,000 (学生の方は¥3,000)

第一部のみ参加される方で、'16年度支部年会費1,000円を納入された方は無料です。

返信葉書で出欠をお知らせください。

■会場: 松本東急REIホテル 松本市 深志 1-3-21 電話 0263-36-0109

記念講演 NHK長野放送局 前局長 荻原久俊氏 第74期

「NHKと私～報道の現場から「真田丸」まで～」



報道一筋30年、NHKニュースの取材、制作にたずさわってきました。ニュースの裏側、その一端を緊急報道の取り組みを含めてお話します。そして「真田丸」との出会い。大阪局時代の思い出を紹介、終盤を迎える大河ドラマのPRもできれば幸いです。

略歴

- ・早稲田大学卒業
- ・1982年 入局
- ・富山、名古屋、広島、報道局政治部で記者、デスク
- ・2011年 大阪局報道部長
- ・2013年 ニュースウォッチ9編集長
- ・2014年 長野放送局長
- ・2016年 経営企画局専任局長

象山の師と上田《幕末、世界に開いた窓》

みなさまが既にご承知のように、長野県上田高等学校は平成27年にスーパーグローバルハイスクール指定校となった。スーパーグローバルハイスクールとは、将来、国際的に活躍できるリーダーを育成するため、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルにビジネスで活躍できる人材の育成に関わる教育課程などの研究開発を行う高等学校を対象として、文部科学省が平成26年度より開始した事業の指定校である。卒業生としてはたいへん誇らしく、同時に本学の学生のみなさんのこれからの一層の活躍を想像し胸躍ることろである。



常田界隈を歩く

休日の散歩であった。秋が少しずつ深まるころの午後、中常田界隈を歩いた。キンモクセイの香りがどこか庭先から風に運ばれてくる。空気に秋の涼しさを感じる頃である。今は市街地となった科野大宮社と並びの通りは、寛文九年(1669年)頃の城下町古地図には「常田村大宮」とあり、江戸時代には、城下で最寄りの田園が広がっていたようだ。通りの半ばでふと右手の社

に目を移すと、立派な「佐久間象山先生勉学の地」という石碑が見えた。石碑は昭和の前半に地元有志の方々に寄進されたものである。碑文はこの地に私塾を設け、多くの門人を指導した禅宗の僧・活文禪師について業績をたたえるもので、その門弟の中でも高名な一人として佐久間象山の名前が刻まれたとある。

現在ある毘沙門堂は小さなお堂だが、当時はこのお堂に隣接する「多聞庵」という寺子屋があり、禅師の下で学んだ門弟は、延べ一〇〇〇人に及んだとも

が、当時はこのお堂に隣接する「多聞庵」という寺子屋があり、禅師の下で学んだ門弟は、延べ一〇〇〇人に及んだとも

活文(かつもん)禪師は、一七七〇年生まれ、一八四五年没の曹洞宗の高僧であった。佐久間象山が一八一一年生まれであるから41歳の年長にあたる。禪師は松代藩の藩士・森五十三重喬(もりいそみしげたか)の子として生まれ、24歳までには曹洞宗を修め、その後の長崎留学で黄檗宗・中国語・オランダ語を習得したと記録がある。さらにそのあとは江戸で数年間を過ごし、人脈を創ったのちに帰郷し、初めは和田村、青木村と禅宗の寺の住職を歴任したのち、文政12年(1800年)に常田の毘沙門堂で私塾を開いたという略歴である。

また本学54期の諸先輩の方々の会の名前を記した桜の木を発見した時は、良き先輩・先達に恵まれた母校に思いを馳せた。

活文禪師の存在は、19世紀の半ばに上田から世界に開かれた窓であった。本学の校門からまっすぐ歩いて10分ほどの史跡を、みなさまも訪ねてはいかがだろうか。(写真と文…長坂文夫(76期))

この話のきっかけは、ある

この話のきっかけは、ある

仰ぎ見る独鈷山は花ふぶき

《ライフワークは桜守り》

(1) 真田四男居城の跡
盛夏の頃、上田市の虚空蔵堂・法住寺(旧丸子町)からほど近い滝沢弘一郎様(本学62期)をお訪ねした。すっかり真田氏ブームとなった平成28年であるが、この地区には歴史を感じさせる「御屋敷」と呼ばれる一帯の地籍があり、真田昌幸の四男として二千石を所領した昌親の居館があったことでも知られる。昌親は関ヶ原の戦いでは兄信之に従い東軍で参戦した。



「国宝松本城」 画:武村洋治(58期)

話を伺った。あ

話を伺った。あ

話を伺った。あ

話をつた。あ

話をつた。あ

(2) 営業の前線で活躍
滝沢さんを訪問したのは、あの「独鈷山千本桜祭」を立ち上げられた経緯(いきさつ)をお聴きするためである。本学を卒業された滝沢さんは、横浜市立大学に進学され、さらに大学卒業後は積水ハウスに就職し高度経済成長下の東京で営業の最前線に立たれ活躍した。時代は昭和。さすがにTVドラマのように何でもあ



独鈷山のふもとにて満開の桜を望む

を紹介されたこともあるという。このお客さんが、近在の資産家で翌月の営業成績は突然のトップに躍り出た、など、楽しく語り出した。お客さん

紹介されたこともあるという。このお客さんが、近在の資産家で翌月の営業成績は突然のトップに躍り出た、など、楽しく語り出した。お客さん

ののだなと思いつつ、そのお

ののだなと思いつつ、そのお

を紹介されたこともあるとい

を紹介されたこともあるとい

も地元に残まるという姿を思い

も地元に残まるという姿を思い

(写真…滝沢弘一郎(62期)、文…長坂文夫(76期))



会務総務

深澤 昌美(49期) 養輪町
八十三歳となり地域の
役職は卒業し、月二回の
ゴルフと孫達(五人)の部
活の応援(追っ掛け)が生
き甲斐となりました。
日々、九十分、九千歩、
約五〜六キロメートルのウ
オーキングは継続中。

林 正平(52期) 下諏訪町
八十歳で老々介護を進めて居るが、長寿社会にあ
つて望ましいことか！疑問を感じつつ。

小池 健司(54期) 岡谷市
温泉へ通うのが日課で、自慢できるのは病院の診察
券の枚数くらい。買った方が安い野菜を作りながら、
年(喜寿)相応に生きております。衰えないのは酒の
量ばかりです。

池田 誠一(58期) 安曇野市
来年は「後高生」となりますが509001の審査員を
続けています。老化のスピードを少しでも遅くするた
めに。

丸山 勝彦(61期) 安曇野市
古希を迎え、気持ち五十台(???)と思っけていても体は
やはり年相応かなくと。孫が大学受験を迎えており心
配です。

原 三良(63期) 高森町
今秋、きのこが大豊作のニュースが全県にあふれている
が、大豊作は松茸のみ。雑きのこは年々とれなくなつて
います。山が荒れてきています。

清水 賢一郎(83期) 駒ヶ根市
四月より南箕輪中学校にお世話になっております。同
窓生のような様子の活躍に励まされ、私もがんばらねば
と毎日を過してしております。駒ヶ根にも足をお運びく
ださい。

会員短信拡大版

『詠んで綴るタジク紀行』

馬場通(61期)

先ごろ(2006)年の四月中旬から五月
末まで)初めてタジキスタンに行く機
会を得た。JICAの水の案件でコンサル
側からの派遣だった。勿論ロシア語通
訳としてである。旧ソ連の關係でタジ
クはロシア語圏だが、圧倒的多数のタ
ジク人は通常タジク語で話し合ってい
るし、少数の例外を除いてはロシア語
が上手いとは言えない。しかし、それ
が何ほどのことであろうか、と声を上
げて言いたくなるほどタジクは素敵な
国であった。旧ソ連の中で最貧国と言
われるタジキスタンが、である。(中略)
無論、仕事の点では旧ソ連的な発想を
背景にした理解のすれ違いはここでも
あった。(中略)三日間は朝から昼飯抜
きで夕方まで議論が続くというタフな
ネゴで、翻訳のために二時間しか眠れ
ぬ日もあった。

(編者注:馬場氏の読まれた句)

錆付きし 井戸に水汲む 乙女らの

笑顔眩しき タジクの村は

ロバに乗る 老人のひげ 覇気に満ち

右に左に 激しく跳ねる

「文章は原文のまま。執筆の時期に合
わせ年次のみ加筆させて頂きました」

第19回 SBC 長野県高校 OB 対抗ゴルフ大会に参加して

ゴルフ好きな OB 全員集まれ 大口 静雄 (59期)



上田高校同窓会中南信支部のゴルフ同好会は58期の武村洋治氏が会長
を務めるゴルフ好きな人達の会です。今年も6月29日(水)に豊科カント
リー倶楽部でゴルフコンペを行い、7月6日(水)に開催されるSBC長野県
高校OB対抗ゴルフ大会本戦に挑戦する予定でしたが、皆さんの都合が合
わずに参加出来ませんでした。松本市から私と上田市から59期の荒井純
平、峯村英夫、荻原敬三の計4名でBチーム、66期の堀内廣一、馬場敏
弘、片桐秀寿、小島昭英の4名でAチームの2チームを結成して参加し
ました。当日は10高校29チーム116名の参加でした。我が上田高校OB
チームはどちらも惨敗でした。

私事ですがゴルフを始めて40年位になります。還暦を迎える頃から体力の衰えを感じ、毎朝40〜50分ウオーキング
を始めました。そして週1〜2回ジムに通い筋力トレーニングをして体を鍛えています。年齢をとっても目的を持つと人
間は努力するものだと感じます。

ところで皆さん、何でそんなにゴルフに夢中なの?と思う方がいらっしゃるかと思います。ゴルフというのはマナー
やルールを守りながら様々な状況の中でプレーをします。あるがままの状態を受け入れ、その中で最善の方法を考えて
選択し、自分が持っている最大の力でプレーをして乗り切っていく。難関コースや難関ホールなど、その状況が困難で
あるほど成功した時の喜びは大きくなります。それが一番の魅力だと思います。ゴルフコースの1ホール1ホールはま
るで人生の様だと思います。

ゴルフを通じて多くの事を学びました。人生の厳しさ、楽しさ、喜びを知る事が出来ました。ゴルフを1日一緒にプ
レーをするとその人の性格が分かる様になりました。ゴルフを通じていろいろな人脈を得る事が出来ました。そして良
い友達に恵まれました。女子プロゴルファーNo1と言われた岡本綾子プロがテレビ解説の中で「ゴルフで一番大切な事
は良きゴルフ友達を持つ事です。」とさりげなく言った言葉は私の最高の財産となりました。

ゴルフを愛する上田高校OBの皆さん、来年は是非高校OB対抗戦に挑戦しましょう。